

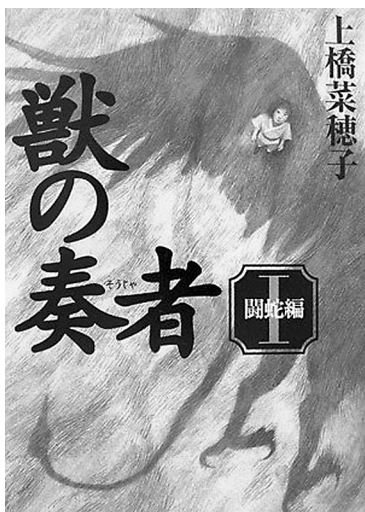
多様な才能が奏でるもの

——『精霊の守り人』と『獣の奏者』のアニメ化に関わって——

上橋菜穂子

ここ数年、私は多くの時間をアニメ制作者たちと過ごしてきました。『精霊の守り人』と『獣の奏者』という二つの物語を、アニメ化していただいたからです。

『精霊の守り人』の場合は、一年半ほど綿密な世界観・物語観・人物観のすりあわせをした後は神山監督にすべてをお任せし、放送開始からは一視聴者として楽しむという姿勢でおりました。



しかし、『獣の奏者 エリン』の場合は、アニメーション監修というお役目を頂戴して、シリーズ構成から、設定、脚本、コンテ、アフレコまでの流れのすべての段階に関与するという形で、制作に深く関わってきました。

物語の執筆と大学の仕事に加えての作業ですから、身体的にも精神的にも大変な日々でしたが、こんな機会がなければ知ることができなかったことを多く知り得た、まさに得がたい経験ができた日々でもありました。

「なぜ、作品のアニメ化を承知したのですか？」と尋ねられることがあります。

文字で書かれた物語をアニメなどにしたら、イメージが崩れてしまうし、自分が書いたものとは別物にされてしまうのに、なぜそれを許すのかと問いたいのでしょうか、私はむしろ、自分が書いた物語が別の作品に生まれ変わっていく様を見てみたいのです。自分が生み出した物語が、他の制作者たちをどう刺激するのか、彼らが私の物語をどう